

学校法人金城学院が、金城学院大学と金城学院幼稚園の設置者を変更すると発表したのを受けて、みどり野会は5月30日、同学院の小室尚子理事長と橋本哲司事務局長を白百合館に招き、みどり野会の正会員に向けて、初めて、直接、説明を聞く機会を設けました。

同学院では、2027年4月から金城学院幼稚園の設置者を学校法人名古屋YMCA学園に、2028年4月から金城学院大学を学校法人名古屋学院大学に設置者を変更し、2029年度をめどに金城学院大学の共学化を検討する計画を発表しています。

同館みどり野ホールで開かれた説明会には、約100人の卒業生が出席。小室理事長は「金城学院の名前がなくなってしまうということはまったくない」と切り出し、「今回の設置者変更は、大学が長年、大切にしてきた教育を将来にわたって発展させ、守っていくための苦渋の決断」などと理解を求めました。

幼稚園については定員50人に対して今年の入園者は30人だったことを明かし、「幼稚園を今以上に生かすために他の幼稚園で実績のあるYMCAにお任せすることにした」と説明。大学については「金城学院大学の昨年度の定員に対する充足率は70%であるのに対し、名古屋学院大学は110%で安定している。学部学科の重複も少なく、同じキリスト教主義ということもあり、3年ほど前から検討していた」と、今回の決断に至った経緯を語りました。

小室理事長は基本合意までのやりとりについて「金城学院の長い歴史の中でも大きな決断であったということは認識しているが、金城学院大学が伝統的に大切にしてきた教育を終わらせようとしているものではなく、新しい未来をつくるための判断。キャンパスや学部学科も、いますぐ変わることはない」と話しました。

共学化の方針については「正式決定ではない」と検討中であるとしつつ「男子学生にジェンダーの多様性などを教育する機会を設けることも必要」と含みを持たせました。最後に「（自身も）卒業生であり、今回の決断は難しかったが、今のままではビジョンが描けない。この先の女子大を取り巻く環境を考えたら、今しかなかった」と打ち明けました。

橋本事務局長は愛知県内の私立、国公立の大学の在学生の人数を男女別に示したり 2013 年度から 2025 年度までの各大学の在学学生数の推移を説明したりしながら、女子大学が置かれている厳しい現状について話しました。

その内容について「少子化やジェンダー平等が進んだことで、県内の大学に進学する女子学生自体は増えているが、共学の大学が積極的に女子を受け入れ始めていることもあり、女子大が選ばれなくなってきた」と分析。「金城学院大学の教育の価値が失われたのではないが、（設置者変更は）金城らしさを次の時代を生きる学生たちに継承していくための判断だ」と強調しました。

説明会では、参加した卒業生から質問や発言が相次ぎました。

「金城の建学の精神や伝統、守ってきた女子教育は、大学名や学部を守るためのものではないはず」「名古屋学院の傘下になるということは金城のほうが弱い立場になるのではないか」「大学が共学化したら中学校、高等学校の偏差値は下がるのではないか」「金城生としてのプライドが維持できないのが残念」「女子大だからこそ、女子特有の学びができていた。その学びをつぶしてまで共学化する必要はあるのか」「なぜ、公式な記者会見をしないのか」「共学化した場合、みどり野会はどうなるのか」などの意見が出ました。また、このような事態を招いた経営陣の経営責任を問う厳しい声も聞かれました。

現在、娘が高校に在学している卒業生からは「金城学院大学への進学を希望しているが在学中に共学になってしまう可能性がある。今から他大学受けるためのコース変更もできない。在校生のことも考えてほしい」という悲痛な叫びや、現在、大学に在学している娘のいる卒業生は「金城の大学に進学した選択は間違っていたのではないかと不安がっている」と訴えるなど、子どもを通わせている親の立場での心配な声もあがりました。

午前 10 時から始まった説明会は、予定を 1 時間以上超えて、午後 0 時半過ぎに終了しました。

みどり野会では、今回の説明会だけで終わるのではなく、引き続き、金城学院からの丁寧な説明を求めるとともに、近く、卒業生からのご意見、ご質問を受け付けるアンケートの実施を予定しております。

詳細についてはホームページなどでご案内いたしますので、ご協力のほど、お願いいたします。